

# 展望室付き風車による 持続可能コミュニティの創成と拡大

千葉大学大学院工学研究科／佐藤建吉

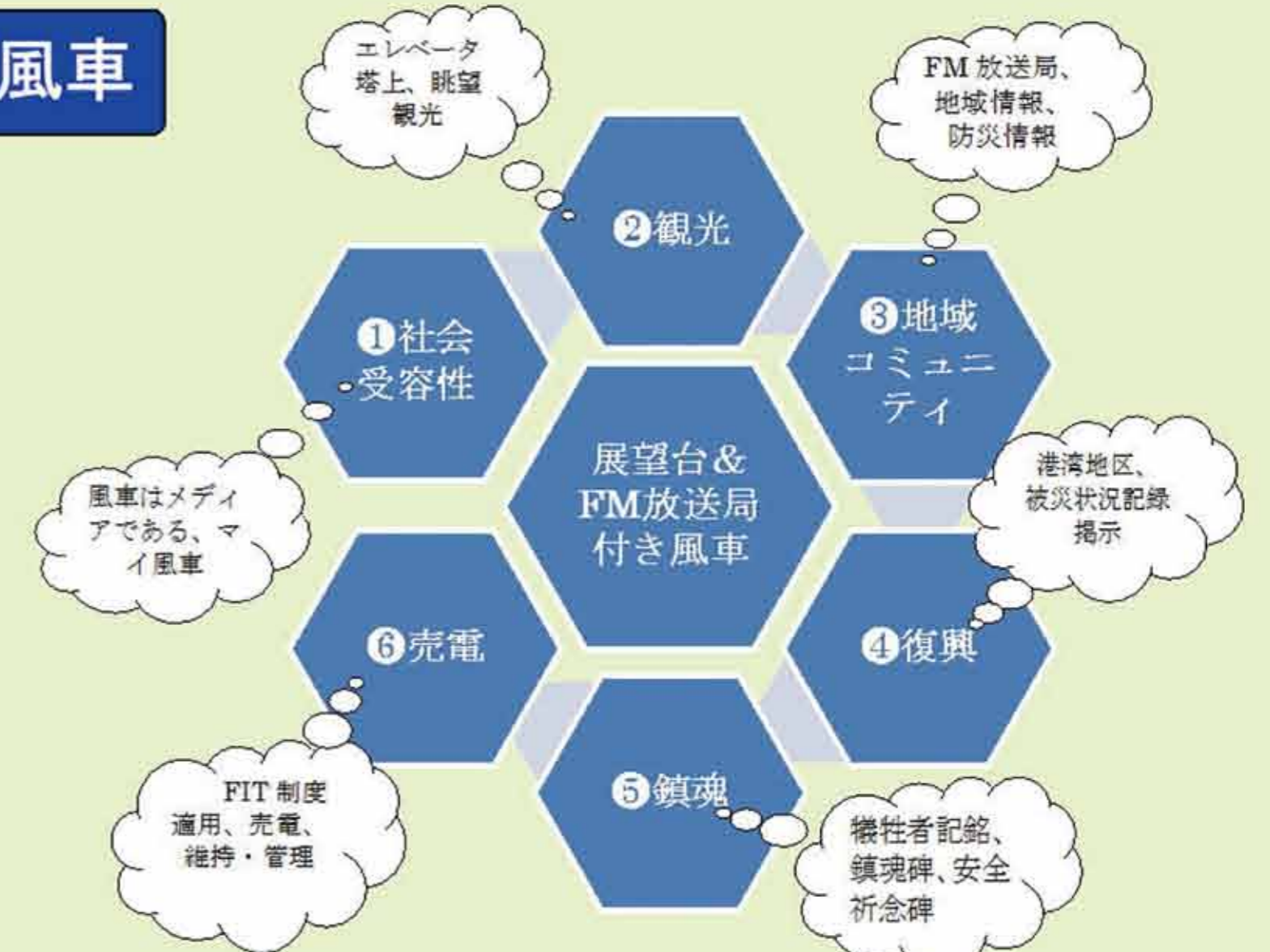


展望室付き風車／the Eye of the Wind／バンクーバー、カナダ／1500kW、ハブ高さ65m、翼直径77m

## ◆ 特長 ◆

### 6つの目的をつなぐ展望室&FM放送局付き風車

- ① 風車は再生可能エネルギー(風力)利用のシンボル。 《社会受容性》
- ② 風車タワーの高さ60mには展望室があり、エレベータで塔上し、眺望観光。 《観光》
- ③ 展望室には、FM放送局があり日常の地域情報を生放送。  
有事の場合は、防災情報の発信。 《地域コミュニティ》
- ④ 展望室には、眼下に観る地域の3.11の被災記録も掲示し現在の復興状況を確認でき、  
過去と現在の比較と将来に向かう意志の再確認。 《復興》
- ⑤ 地上には、犠牲者記録と鎮魂碑・安全祈念碑を設置。 《鎮魂》
- ⑥ 展望室付き風車の長期の維持管理は、FIT制度を適用。 《売電》



## ◆ 目的 ◆

### 市民のチカラ復興のシンボルに！

- ① 展望室付き風車をツールとして、自然エネルギー利用、とりわけ風力エネルギー利用の有効性に目を向かせる。 ←「風車はメディア」と言われるように気づきを与える。
- ② 展望室付き風車には、地上から展望室(地上から高さ60m)まで通常タイプのエレベータを設置し、観光(客)として塔上できるようにする。 ←タワービューを楽しむ。
- ③ 展望室付き風車には、FM放送局を設置し、地域情報を展望室から放送する。 ←地域情報を流し、日常的な地域コミュニティの形成と、実践を行う。
- ④ 設置場所は、津波被災地の陸地・港湾部として、沖合から市街地まで眺望でき、被災時の記録写真などを掲示し、防災意識を忘れないようにする。 ←復興のシンボルの一つとする。
- ⑤ 犠牲者の名前を風車のタワーに記銘し、同時に鎮魂碑を地上にも設置する。 ←鎮魂の意味を込めて、多くの人の心をつなぐ、安全祈念碑とする。
- ⑥ FIT制度を導入し、長期の売電収入とメンテナンス確保を堅持したシンボルとする。



【設置候補地】

## ◆ 設置と運営 ◆

### 東北3県からイノベーション！

●カナダのバンクーバーにあるエレベータで登ることができる展望室が付いた大型風車(1500kW)を日本向けの仕様として設計、開発する(当該メーカーとは打合せ済み)。 ●地元と全国の市民に呼びかけ「市民風車」として設置し、地元法人の目的会社が運営を行う。 ●一部には公的資金も導入するが、情報公開と、「見える化・分かる化・出来る化」の手法で、コミュニティ、パブリシティ、サステナビリティを整備し、全国的に拡大展開する。 ●毎年恒例行事として、地元記念フォーラムなどを開催する。 ●鎮魂のためには、正式な神社仏閣の協力を得る。 ●なお、必要経費は、1機当たり約7億円であるが、10~12年で返済可能のように、ビジネスモデルを構築することが可能。

## ◆ 背景 ◆

●我が国の再生可能エネルギー利用、とりわけ風力発電利用は、風力ポテンシャルが大きいにも関わらず、原発依存から抜けられない保守性から、欧米や中極の国々に比較しても見劣りする現状にある。 ●その結果、我が国は、GDPが高いが、個人あたりの設備量は21W/人に留まっている(デンマークは860W/人)。 ●風力発電に対してはNIMBYが強く、これを回避する「社会受容性」が創り出されていない。 ●いまこそ、復興・再生・創造のために、持続可能な(サステナビリティ)地域コミュニティの創成モデルを、被災地からパブリシティとして発信し、全国に拡大させる「展望室付き風車」を提案する。



ライフスタイル部門 復興チャレンジ!

REVIVE JAPAN CUP 2014

「展望室付き風車」による持続可能コミュニティの創成と拡大  
千葉大学大学院佐藤建吉研究室